

日本司法福祉学会 ニュース No.25



〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範研究室気付
Tel: 059-383-9208 (内線2407) Fax: 059-383-9666

国際犯罪学会第16回世界大会へのお誘い

加藤幸雄
(日本司法福祉学会会長)

国際犯罪学会第16回世界大会が、本年8月5日から9日、神戸国際会議場において開催されることをご承知のことと思います。それによって、2011年度の司法福祉学会が、1ヶ月遅れとなりました。

国内の犯罪に関わる学会や研究団体が多数参加し、日本司法福祉学会も、8月8日の午後に神戸学院大学で学会企画シンポジウムを行います。テーマは、「日本における司法と社会福祉の協働～少年犯罪を中心に～」です。公開講座なので、誰もが無料で参加できます。是非とも参加願います。

しかし、私たちの企画以外にも興味深い内容が目白

押しですので、可能な限り、参加費を払って参加されることをお勧めします。参加費は、4月末日までの申込みであれば3万円です。結構高いと思われるかもしれませんが、発展途上国からの招待などの費用が必要であり、日本で開催される犯罪学の世界大会はまたとない機会であるとも言えます。一度、国際犯罪学会HPを開けて内容をみてください。

なお、学会企画シンポジウムには、外国からシンポジストをお招きする予定でしたが、財政難もあり断念しました。企画では、加藤幸雄、服部 朗、湯原悦子、藤原正範、佐々木光明会員が発表します。

日本司法福祉学会企画シンポジウムの内容

Collaboration of Law and Social Work in Japan: Focusing on Juvenile Crime

1. Keynote Session Sachio Kato
2. Bipolarization of Juvenile Justice and Child Welfare: Losing Their Collaboration Akira Hattori
3. The Juvenile Act Pursuant to 2000: A Toughening of Measures Etsuko Yuhara
4. The Lay Judge System and Juvenile Cases: The Role for Forensic Social Work Masanori Fujiwara
5. Discussant Mitsuaki Sasaki

私たちのプレゼンテーションは日本語と英語で行い、会場との議論には通訳が入ります。企画者、シンポジスト、指定討論者とも、会場にどれくらい外国の方が入るものか、不安と期待で胸がいっぱいになっています。現在、抄録集原稿を提出したところであり、今後、プレゼンテーション原稿の作成、「日本の少年司法」紹介資料の製作などを行います。

日本司法福祉学会の企画は、大会4日目の8月8日(月)午後1時15分～4時30分、神戸国際会議場501号室で行われる予定です。

第12回日本司法福祉学会全国集会「おおさか大会」のご案内

2010年12月17日、2011年2月11日、2回にわたって、おおさか大会実行委員会が開催され、次のような計画が立てられました。

- 大会日時：2011年9月3日（土）～9月4日（日）
- 大会会場：関西福祉科学大学（大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11-1）
*近鉄「河内国分」または「大阪教育大前」から徒歩12分程度
- 大会テーマ：「被害～加害～被害——虐待と非行・犯罪への司法福祉実践を考える——」
- 大会日程（今後、実行委員会での話し合いにより変更される可能性があります）

第1日 9月3日（土）

- 午前10時～12時 プレ企画（ワークショップ&ラウンドテーブル）
 - ①当事者からのメッセージを中心に（当事者から見た司法・福祉による支援）
企画：松宮満（関西福祉科学大学）・遠藤洋二（関西福祉科学大学）
 - ②スクール・ソーシャルワークを中心に（学校現場における被害と加害）
企画：佐々木千里（SSW）・金澤ますみ（大阪人間科学大学）
- 午後1時～1時10分 オープニング・セレモニー
- 午後1時10分～5時40分 大会シンポジウム
テーマ「連鎖、錯綜する被害と加害」（仮称）・児童虐待、非行・犯罪について2部構成を検討中
企画：野田正人（立命館大学）・佐々木千里（SSW）
- 午後5時40分～6時20分 日本司法福祉学会総会
- 午後6時30分～ 懇親会

第2日 9月4日（日）

- 午前9時～12時30分 テーマ別分科会
- 午後1時30分～3時30分 自由研究発表

おおさか大会実行委員会から 会員の皆様へのお願い

テーマ別分科会の企画、自由研究発表を募集します。それぞれの希望者は、次の情報をメールか郵送で、**5月20日必着**でお送りください。

- ①分科会か、自由研究発表か
- ②分科会の企画者、自由研究発表者の氏名と所属・連絡先
（共同の場合、可能な限り全員の氏名・所属を明らかにしてください）
- ③分科会企画、研究発表の概要（400字程度）

[送付先]

〒582-0026
大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目11-1
関西福祉科学大学 遠藤洋二
yendo@fuksi-kagk-u.ac.jp

おおさか大会実行委員会のメンバー

- 委員長 松宮 満（関西福祉科学大学）
- 事務局長 遠藤洋二（関西福祉科学大学）
- 実行委員 金澤ますみ（大阪人間科学大学）
近藤吉徳（大阪人間科学大学）
佐々木千里（SSW）
佐野雅彦（大阪府東大阪子ども家庭センター）
豊住伸夫（法務省大阪少年鑑別所）
永井友基（社会福祉法人神戸少年の町）
野村恭代（関西福祉科学大学）
古川隆司（追手門大学）
松村歌子（関西科学福祉大学）
坂口伊都（東大阪大学短期大学部）
野田正人（立命館大学）*大会担当理事
前田忠弘（甲南大学）*大会担当理事

[事務局長からのお願い]

まだまだ実行委員会の人数は足りません。関西所属の会員の皆様、おおさか大会の実行委員になってください。
（協力してくださる方は遠藤にメールをお送りください）

司法福祉理論研究会を開催

藤原正範（事務局長）

2月12日（土）の理事会後、午後1時半から4時まで、第1回司法福祉理論研究会を開催しました。第1回目ということで、「司法福祉とは何か」をテーマとして、加藤幸雄さん、服部 朗さんと私の3人が、それぞれ30分程度ずつ話題提供し、意見交換を行いました。加藤さんは、領域の広がった司法福祉の新たな定義を提案し、服部さんは、自らの著書で司法福祉をどうとらえたかを紹介しつつ従来の理論へのいくつかの疑問点を明らかにしました。私は、NOFSWのフォレンジック・ソーシャルワークの定義とソーシャルワークの中での司法領域の特殊性について仮説を述べさせていただきました。

この会には、名誉会員山口幸男先生ほか、数名の会員、しかも実践現場（家裁、少年院、保護観察所）の会員が参加しました。

第2回目の会は、9月2日（金）（おおさか大会前日）の午後、理事会後、おおさか大会会場（関西福祉科学大学）内で開催する予定です。

「セカンドチャンス！」にご理解とご支援を

元法務教官 八田次郎

「セカンドチャンス！」は、静岡県立大学津富宏准教授が犯罪学者シャッド・マルナ教授による「長所基盤モデル」理論に共鳴し、「少年院の出院者こそ少年院を出てきた若者を支えられる」という考えのもと、関係者等に呼び掛けて、平成21年1月に設立されました。創設時には、当事者として出院者のほか支援者として教員、弁護士、法務教官、犯罪被害者等が参加しました。

本年1月15・16日には、立教大学において『少年院からの社会復帰と、当事者支援の可能性』と題して設立記念イベントを開催しました。イベントには当学会からも後援をいただき、お陰様で大変盛会でした。また、本年1月には『セカンドチャンス！ 人生が変わった少年院出院者たち』（新科学出版社）を出版しました。出院生と支援者がそれぞれの体験、思いを綴りましたが、なかなか好評です。非行に関わる方には、ぜひご一読いただければと存じます。

「セカンドチャンス！」にご理解とご支援をお願いいたします。

日本司法福祉学会第11回なごや大会（2010.8.7～8.8）会計報告

	科 目	決 算 (円)
収入の部	学会からの入金 (学会の全国大会予算 300,000 円)	550,000
	会員参加費	344,000
	非会員参加費	152,000
	弁当・お茶代	167,000
	懇親会費	356,000
	その他（利息）	34
	合計	1,569,034
支出の部	物品購入費	26,993
	物品発送費	6,650
	通信費	18,780
	会場費	41,940
	振込手数料等	1,312
	プレシンポジウム事前打合せ旅費	10,100
	シンポジウム講師依頼手土産代金	2,100
	海外講師・交通宿泊費（送金費用を含む）	294,434
	国内講師（プレ企画・記念講演・大会シンポジウム） 交通費・謝礼	184,150
	分科会講師交通費等	72,680
	学生等アルバイト・交通費	169,450
	抄録集印刷代	84,210
	懇親会・弁当・お茶代	500,000
	合計	1,412,799
残金（学会事務局に返金）		156,235 円

(予算オーバー支出分) 250,000 - (返金分) 156,235 = 93,765 円 (最終予算オーバー分)

事務局からのお知らせ

会員動向

理事会により加入が承認された新会員

- 9月15日
大原天晴（横浜市立向陽学園・上智大学大学院）
- 11月15日
永井友基（児童養護施設神戸少年の町）
- 11月30日
野村恭代（関西福祉科学大学）
日向陽子（静岡保護観察所）
- 12月20日
古川隆司（追手門大学）
- 2月1日
渡辺智子（東京弁護士会）
- 2月12日
橋爪 勇（富山弁護士会）

2月12日理事会の決定事項

(1) 組織整備について

2011年2月10日現在の会員名簿登録人員は405名である。所在・所属不明で連絡の取れない会員、3年以上の会費未納入の会員について、2010年度末（2011年3月31日）をもって、会員名簿から削除を行う。

(2) 財政状況について

2011年2月10日現在高 1,892,810円である。なごや大会は学会予算300,000円のところ、海外からの講師招聘等の事情により93,765円の予算オーバーとなった（会計報告を参照）。

(3) 事務局事務の遂行について

2010年9月27日、株式会社生活書院と向こう2年間（2012年9月30日まで）の学会誌編集を含む事務局事務の一部を委託する再契約を行った。

(4) NOFSW との学術交流事業について

2011年1月に第1号発行のFSW ジャーナルの編集委員に事務局長藤原、理事湯原が選任された（NOFSW の依頼による）。NOFSW ニュース「オープン・コート」に日本司法福祉学会なごや大会の方向が掲載された。NOFSW 第28回定期集会は、2011年4月16～18日、ニューオリンズ市で開催される。

(5) 第12回全国大会（おおさか大会）について

2010年12月17日、おおさか大会実行委員会が結成された（実行委員長：松宮 満、事務局長：遠藤洋二、担当理事：野田正人・前田忠弘）。

(6) 研究誌「司法福祉学研究」について

編集委員として、新たに小長井賀興・村尾泰弘両会員を選任した。学会誌「司法福祉学研究」の英文タイトルを「Japanese journal of Forensic Social Services」とする。2011年9月の総会で、査読の体制を整える（査読フローチャートの制定）。査読は査読者2名により実施する。投稿論文は、英文タイトルを義務、英文要約を任意とする。

(7) 国際犯罪学会第16回世界大会（神戸）について

日本司法福祉学会の企画は「日本における司法と社会福祉の協働～少年犯罪を中心に～ Collaboration of Law and Social Work in Japan — Focusing on the Juvenile Crime」。企画者は加藤幸雄、シンポジストは服部 朗・湯原悦子・藤原正範、指定討論者は佐々木光明。世界大会実行委員会への負担金（40万円）、分科会参加の資料作りのために学会財政から支出を行う。

(8) 日本司法福祉学会編『司法福祉入門』（仮称）出版について

2011年6月末を刊行予定とし、執筆を担当する理事において作業を進める。全原稿を、適当な時期に全理事の校正にかける。

(9) 司法福祉理論研究会について

本理事会後に第1回研究会を開催する。以後、適宜継続する。

(10) 関係団体との協働について

「裁判員裁判のための対人援助専門職ネットワーク」、「セカンド・チャンス!」、「性教育研究会」の活動が報告され、今後の協働を確認した。

(11) その他

- ① 東京大学大学院生の韓国人留学生チャンソンキョンさんが、司法福祉をテーマにした研究をしている。今後、韓国の研究者との交流を検討する。
- ② 第13回全国大会は、2012年8月、東洋大学（白山）にて開催する。

会費の早期納入についてのお願い

本ニュースと同時に、2011年度会費の請求をさせていただきます。学会運営を円滑にするため、早期の納入にご協力をお願いします。2010年度以前の会費、入会金の未払いの会員が若干名います。2011年度会費納入に合わせてお支払いをお願いします。